

# 町小だより

令和4年  
9月30日  
No. 669  
御免町小学校

## 「知識」と「思う心」

校長 相澤 祐助

今年の夏は、下越北部に大きな水害が発生しました。50年ほど前の羽越水害を想起させるくらい被害は甚大でした。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復旧をお祈りします。

2学期がスタートして1か月がたちました。新型コロナウイルス感染症の第7波もようやく落ち着きを見せ始め、学校の日常が徐々に戻りつつあります。9月29日には、3年ぶりの親善陸上大会が開催され、6年生の活動の思い出に一コマが加わりました。結果も大切ですが、大会に向かう途中、練習での仲間や先生方とのふれあいのほうがもっと大切だと私は感じています。100m走のスタートダッシュの方法、リレーでのバトンパスのタイミング、どれも一人では難しいものです。仲間や先生から教えてもらい、やってみて、失敗し、何度も挑戦することで少しずつ上達する。「いまの良かったよ」「もうちょい、腕を高く」などのアドバイスや励ましが人を成長させるのです。

9月14日、5年生の防災教室が行われました。新型コロナウイルス感染症、第7波の影響で「あかたにの家」での宿泊体験はできませんでしたが、1日かけて御免町小学校の体育館で5年生は防災について学ぶことができました。講師として、群馬大学から金井准教授が来てくださいました。また、心肺蘇生法の講義を県立新発田病院の先生方が来てくださいました。直接、専門の先生から学ぶ機会を得た5年生は、目を輝かせて話を聞き、実際に体験活動をしていました。段ボールを使ったパーティションはプライバシーを守るのに役立つこと、救急カーは災害時には役立つこと、心肺蘇生法はとても体力がいること、あらゆる知識を得たようです。では、その知識が、本当に災害時に役立つのか、そこが大きなカギと言えます。

金井准教授はこうおっしゃっています。「防災を学ぶのではありません。防災で学ぶのです」防災の知識を詰め込む、理解するだけでは、実際の災害場面ではほとんど役に立たないそうです。防災の学習の中で、人と人とがどんな会話をしたらいいのか、具体的な災害場面で自分はどう行動したらいいのかを考えることが一番重要だと言うのです。大きな揺れがきたら、まっさきに何をすべきか。水害の危険が迫ってきたらどう動いたらいいのか。事前に備えておくことは何か。避難所に集まったら、気を付けることは何か。大切なことは「知識」だけではなく、周りの状況や人を「思う心」なのです。その心が自分を動かすのです。5年生は、「自分で考えて行動する」をテーマに学習できたので、すごいなあと思いました。

実りの秋になりました。おいしいお米、果物が出回ってきました。身も心も実りの秋になりますように、と祈る毎日です。皆様2学期もどうぞよろしくお祈りいたします。